

かごしまの農業 2023



鹿児島黒牛 和牛の頂きへ

特別区 高校及び農業大学校

第8区 去勢肥育牛【最優秀枝肉賞】

第5区 高等登録群、第6区 総合評価群、

第1区 若雄、第4区 繁殖雌牛群、

農林水産大臣賞 受賞

第4区 繁殖雌牛群

内閣総理大臣賞 受賞

第12回 全国和牛能力共進会

頂点
鹿児島黒牛
黒毛和種



令和5年3月
鹿児島県農政部

目次

I 主要施策の概要

★ 生産資材価格高騰への対応……………	1	4 農地利用, 基盤整備等……………	7
1 生産振興, 販売・流通等……………	2	5 生産性向上……………	8
2 安全で安心な農畜産物の安定供給…	5	6 農村振興……………	10
3 担い手確保・育成……………	6	7 農業災害防止等……………	11
		8 食育及び地産地消……………	12

II 本県の地理

1 位置……………	13
2 地勢……………	13
3 気象……………	13

III 農業の概要

1 概要……………	14	3 農用地……………	21
(1) 全国における本県農業の地位		(1) 耕地面積	
(2) 農業産出額		(2) 農業経営体数と1経営体当たり経営耕地面積	
(3) 生産農業所得		(3) 耕地利用率	
(4) 県内経済における農業の地位		(4) 荒廃農地	
2 農業者……………	17	(5) 農地流動化	
(1) 個人経営体数		(6) 農業農村整備	
(2) 基幹的農業従事者		4 流通・販売……………	24
(3) 担い手		(1) 農畜産物の輸出	
(4) 新規就農者		(2) 6次産業化の市場規模	
(5) 企業等の農業参入		(3) 食品製造業の出荷額	
(6) 女性農業者		(4) かごしまの農林水産物認証制度 (K-GAP)	
		5 農業災害……………	26
		(1) 農業保険 (農業共済, 収入保険)	
		(2) 鳥獣被害額	

IV 品目別の生産動向

1 生産状況……………	27	(7) 茶……………	34
2 最近の情勢と今後の推進方向		(8) 葉たばこ……………	35
(1) 米……………	28	(9) 肉用牛……………	36
(2) さつまいも……………	29	(10) 乳用牛……………	37
(3) 野菜……………	30	(11) 豚……………	38
(4) 果樹……………	31	(12) 採卵鶏……………	39
(5) 花き……………	32	(13) 肉用鶏……………	40
(6) さとうきび……………	33		

V 作物カレンダー

作物カレンダー……………	41
--------------	----

VI 農政の推進体制

1 農政部予算……………	44
2 農政部機構図……………	45

I 主要施策の概要

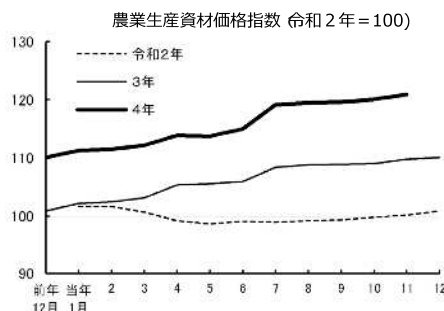
★生産資材価格高騰への対応

世界的な物流の混乱やロシアによるウクライナ侵攻、円安等に伴う燃油・肥料・飼料などの生産資材価格の高騰により、農業生産の現場では多くの生産者が厳しい状況に直面。

国及び県においては、生産資材価格の高騰による農業分野への影響を抑え、農家の経営安定を図るため、各種支援策を措置。

〈生産資材価格の動向〉

農業者が購入する農業生産資材価格の指数である農業生産資材価格指数は、令和4年は、飼料、肥料等の価格が上昇したことにより、上昇。



〈経営支援対策〉

令和4年5月24日に、各地域振興局・支庁に窓口を設置し、農業者からの生産資材の価格高騰に対する相談に対応。(相談件数：82件、(燃油32件、飼料103件、247件) 令和4年12月末現在)

〈各種支援策〉

国は令和4年4月、直面する物価高騰による影響を緩和するため、「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を措置。また、同年7月には「肥料価格高騰対策事業」により、肥料コスト増加分の7割を支援する施策を、9月には配合飼料の価格高騰対策として、令和4年度10～12月期の実質的な飼料コストを7～9月期と同水準にする追加策を措置。

県は、燃油については、国のセーフティネット事業への加入時に負担する経費の一部や、ヒートポンプなど省エネ機器等の導入支援、肥料については、肥料コスト上昇分の7割を支援する国の措置に合わせて、肥料コスト上昇分の一部支援、配合飼料については、国の配合飼料価格安定制度に加入している生産者の負担経費の一部を支援。

また、農業用ビニール資材についても、価格上昇分の一部を支援。

資材名	支援内容	事業名	事業内容
燃油	燃油価格の高騰に対する影響緩和対策	施設園芸セーフティネット構築事業【国】	国と農業者が1対1で積み立てた資金から、燃油の全国平均価格と発動基準価格との差額を補填
		茶セーフティネット構築事業【国】	
		茶・施設園芸燃油高騰対策緊急支援事業【県】	茶工場及び施設園芸農家が、国のセーフティネット構築事業への加入時に負担する積立金の一部を支援
	省エネ機器等の導入支援	産地生産基盤パワーアップ事業【国】	施設園芸等で使用されるA重油等の価格が高騰している状況を踏まえ、ヒートポンプ等の省エネ機器・設備の導入等を支援
		茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業【国】	茶加工のエネルギーコスト削減に資する機械のリース導入を支援
肥料	肥料コスト低減体系への転換を支援	燃油等高騰対策機械導入緊急支援事業【県】	燃料費及び肥料費が増加し、経営に影響を受けている農業者に対し、経費削減につながる省エネ機器、機械の導入を支援。(ただし、国庫補助事業の対象とならない場合に限る)
		肥料コスト低減体系緊急転換事業【国】	慣行の施肥体系から肥料コスト低減体系への転換を進める取組として、土壌診断や肥料コスト低減に資する技術の導入等を支援
		肥料価格高騰対策事業【国】	肥料価格の高騰による農家経営への影響を緩和するため、化学肥料の2割低減の取組を行う農業者に対して肥料コスト上昇分の7割を支援
		化学肥料低減化推進事業【県】	土壌診断に基づく化学肥料の使用量の削減に向けて、高速で診断できる機器の整備や、良質堆肥の生産支援に向けた機器の整備や施肥法の開発
飼料	配合飼料の価格高騰対策	肥料価格高騰緊急支援事業【県】	肥料価格の高騰による農業経営への影響を緩和するため、化学肥料使用量の低減に取り組む農業者に対して、国の肥料価格高騰対策事業と協調し、肥料コスト上昇分の一部を支援
		配合飼料価格安定制度【国】	配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するため、「通常補填」と「異常補填」の二段階の仕組みにより、生産者に対して補填
農業用ビニール資材	農業用ビニール資材の価格上昇分の一部を支援	配合飼料価格高騰対策緊急支援事業【県】	配合飼料価格安定制度に加入している生産者積立金の一部について支援
		被覆資材価格高騰対策緊急支援事業【県】	原油高騰の影響により価格が上昇している農業用ビニール資材の価格上昇分の一部を支援

1 生産振興，販売・流通等

〈かごしまブランドの確立等〉

かごしまの強みをしっかり生かせる農畜産物を「かごしまブランド産品」として指定し，これらの産地づくりと販売促進活動を展開しています。

なお，一定の基準を満たした生産者団体等を「かごしまブランド団体」として認定しています。

令和5年1月末現在，168団体が，「かごしまブランド団体」に認定されています。



かごしまブランドマーク

和牛日本一に輝いた鹿児島黒牛など「かごしまブランド産品」を中心に，大消費地の量販店等でのPRや知事トップセールスの実施，鹿児島黒牛・かごしま黒豚販売指定店，かごしま茶販売協力店の拡大など，県内外での販売促進活動を展開しています。

また，県内で生産される高品質で希少性のある果物について，適正に評価される販路を開拓するため，生産者等が行う販売促進活動を支援しています。



高級果物専門店での知事トップセールス



調理師専門学校での
かごしまの「食」発表会



かごしまの食ウェブサイトによる県内外への情報発信

〈農畜産物の生産振興及び銘柄産地の育成〉

農林水産物・食品のうち，品質等の特性が産地と結びついており，名称が特定できる産品を，知的財産として国が保護する「地理的表示保護制度（GI制度）」を推進しています。

「鹿児島の壺造り黒酢」「桜島小みかん」「辺塚だいたい」「鹿児島黒牛」「えらぶゆり」「種子島安納いも」が登録されています。



〈農畜産物の輸出拡大等〉

日本一の生産量を誇り、第12回全国和牛能力共進会で日本一を獲得した鹿児島和牛やさつまいものほか、お茶やきんかんなど多くの農畜産物が、海外へ輸出されています。



県農林水産物輸出用
統一ロゴマーク

国際水準GAPの取得支援など輸出に意欲的な農業者等への支援で生産体制を強化する取組と、県内輸出商社の海外営業活動への支援による県産農産物等の海外への販路開拓や、SNSを活用し、海外インフルエンサーを起用した県産品プロモーション、海外小売店等での鹿児島フェアや輸出商談会の開催等の販売力を強化する取組を行っています。

牛肉は、香港、台湾をはじめとするアジア諸国や米国、EUへの輸出が順調であり、県食肉輸出促進協議会を中心とした、食品展示会や商談会への参加、高級部位（ロース、ヒレ）以外の多様な部位の利用促進を図るためのカット技術の普及、「鹿児島和牛」を取り扱う販売指定店拡大の取組への支援とともに、「鹿児島和牛」ならではの魅力が詰まったPR動画を作成し、さらなるPRの強化に取り組んでまいります。



DON DON DONKIにおける
鹿児島フェアの開催（シンガポール）



輸出相手国での食品展示会における
「鹿児島和牛」PR



県食肉輸出促進協議会統一ロゴマーク
「鹿児島和牛」（左）、「かごしま黒豚」（右）



「鹿児島和牛」GIマーク



カットの技術の普及

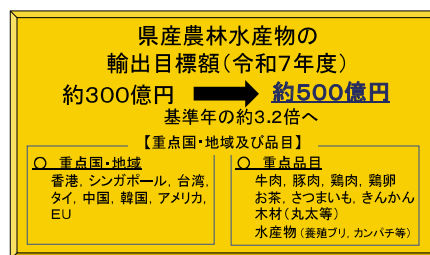
県農林水産物輸出促進ビジョンを改訂

〈県産農林水産物輸出額が過去最高を記録〉

県では、平成30年に県農林水産物輸出促進ビジョンを策定し、「つくる」「あつめる・はこぶ」「うる」の3つの視点から、農林水産物の輸出に係る生産体制と販売力の強化に取り組んでいます。

その結果、令和3年度の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約311億円となり、同ビジョンに掲げた輸出目標額約300億円（目標年度：令和7年度）を4年前倒しで達成しました。

目標額を達成したことから、令和4年度末に同ビジョンを改訂し、新たに輸出目標額を約500億円（令和7年度）に設定しました。新たな目標の達成に向けて、引き続きこれまでの取組を着実に進めることにより、県産農林水産物の更なる輸出拡大を図ります。



新たな輸出目標額約500億円の設定

〈6次産業化の推進〉

農林水産物の付加価値創出を通じて、農林漁業者の所得向上や雇用の確保など農山漁村の活性化を図るため、6次産業化を推進しています。

商品開発等に関する専門家の派遣や県内外で開催される商談会への出展、販売機会の提供など、伴走型の支援を展開しています。

また、大隅加工技術研究センターにおいて、リモートによる相談対応や加工技術の指導などを行っています。



専門家による相談対応



商談会への出展支援



リモートによる加工相談



加工技術の指導状況

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会「和牛日本一」

「和牛新時代 地域かがやく和牛力」をテーマに、令和4年10月6日から10日までの5日間にわたり、「第12回全共鹿児島大会」が霧島市牧園町（種牛の部・高校及び農業大学の部）と南九州市知覧町（肉牛の部）で開催されました。本県での全共は、第2回大会以来52年ぶり、全国初の2回目開催であり、過去最多となる41道府県から代表牛438頭を一堂に集め、和牛改良の成果を競う熱戦が繰り広げられました。大会期間中は県内外から30万8千人に来場いただき、鹿児島の「食」や「観光」などの本県の魅力を満喫いただきました。

本県から出品した「鹿児島黒牛」は、全9部門中6部門で首席（農林水産大臣賞）を獲得するとともに、「種牛の部」では、30年ぶりとなる内閣総理大臣賞を受賞したほか、「肉牛の部」（第8区）で前回に引き続き、最優秀枝肉賞を受賞するなど、「和牛日本一」の栄冠を獲得しました。

共進会と併せて開催された催事については、「和（わ）っ！と驚く美味さが牛（ぎゅ）っ！と詰まった 和牛の魅力」を鹿児島から「和牛フェス2022」をテーマに掲げ、来場者に和牛の魅力を体感してもらえるよう、全国ブランド牛の試食をはじめ、楽しみながら和牛のことが学べる「かごしまママミュージアム」など、さまざまなブース・イベントも実施しました。

また、閉会式には、岸田内閣総理大臣が御臨席され、祝辞をいただくとともに、「内閣総理大臣賞」の賞状とトロフィーを直接、受賞者に授与いただきました。最後に、次回開催地である北海道知事が挨拶され、5日間の大会に幕を降ろしました。

今後とも、この「和牛日本一」の称号を前面に打ち出し、国内外に向けて積極的なPRに取り組み、更なる「鹿児島黒牛」の販路拡大につなげることをとしています。



「種牛の部」第4区
内閣総理大臣賞



「肉牛の部」枝肉審査・展示の状況



「和牛日本一」PR

2 安全で安心な農畜産物の安定供給

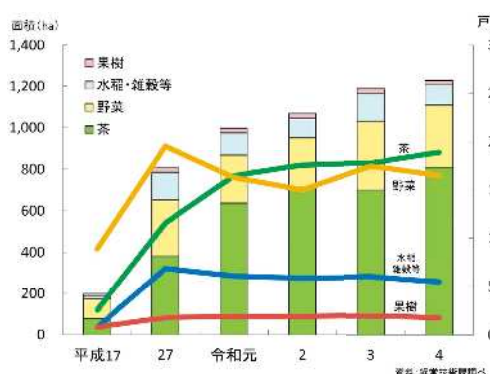
〈食の安全・安心対策〉

安心・安全な県産農林水産物を生産し、消費者からの信頼を確保するため、「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」の認証取得の促進や普及・拡大等に取り組むとともに、国際水準GAPの普及を図るため、GAP指導員の育成やGAP認証の取得支援などに取り組んでいます。

また、関係機関と連携しながら、食品表示制度の普及・啓発や食品表示実態調査を通じた小売業者等への指導などを実施し、県民の信頼を確保する食品表示の適正化に取り組んでいます。

〈環境との調和に配慮した産地づくり等〉

環境と調和した産地づくりに向けて、健全な土づくりの推進と化学肥料・化学合成農薬の使用量の低減や農薬・肥料等の適正使用、バイオマスの利活用の促進、産地への啓発活動及び消費者への理解促進を積極的に推進しています。



有機農業の取組面積及び農家戸数の推移



K-GAP PRフェア



食品表示実態調査の状況



土着天敵昆虫：テントウムシ

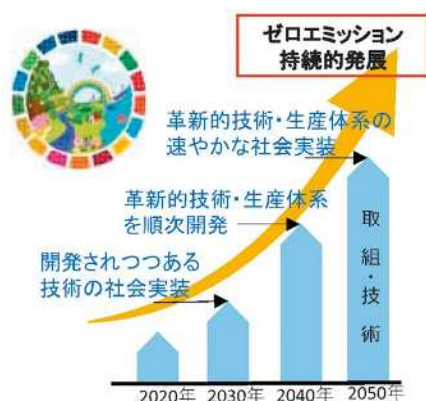
また、土着天敵昆虫等を利用する生物的防除を中心とした総合的病害虫・雑草管理（IPM）技術の普及を図るとともに、環境保全型農業直接支払制度を活用した有機農業団体等への支援や技術指導など、生産から販売まできめ細やかな支援を行い、有機農業を推進しています。

みどりの食料システム戦略

我が国の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるため、農林水産省は令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

2050年までに目指す姿として、農林水産業のCO₂ゼロエミッション化の実現など14項目の目標を掲げ、その実現に向けて、調達から生産、加工・流通、消費までの各段階での課題の解決に向けた取組を進めることとしています。

令和4年7月にはみどりの食料システム法が施行され、本県においても、県内全市町村と共同して策定した基本計画に基づき、環境負荷低減事業活動の取組を推進することとしています。



3 担い手確保・育成

〈経営改善意欲のある農業者の確保・育成〉

効率的かつ安定的な経営の実現を目指す認定農業者などの担い手を確保・育成するため、農業経営の法人化など、担い手の経営発展につながる各種研修会の開催や専門家派遣による課題解決に向けた取組を推進しています。

また、農業の新たな担い手として、企業等の農業参入を促進するとともに、農福連携の推進や外国人材の安定的な受入に向けた環境整備など、多様な人材の確保に向けた取組を推進しています。



経営発展に向けた専門家派遣

〈新たに就農しようとする者の確保・育成〉

新規就農者を確保・育成するため、県内外での就農相談の実施、農業大学校での教育・研修、就農に向けた研修資金・経営開始資金の交付、就農後の機械・施設等導入の支援など、就農準備から経営安定まで総合的に支援しています。



農業青年のプロジェクト成果発表

〈女性農業者が能力を発揮できる環境整備〉

基幹的農業従事者の約4割を占める女性の活躍を推進するため、女性農業経営士の認定や海外農家体験研修等の実施によるリーダー育成、女性農業者グループ等の活動支援など、女性が地域農業の担い手として、能力発揮できる環境づくりを推進しています。



異業種と連携した商品開発の取組

〈集落営農の育成・活動促進等〉

集落営農の活動を促進するため、小規模な農業者や高齢農業者も含めた地域の話合い活動に基づき、ビジョンづくりや人材の確保、収益力向上に向けた新規品目の導入、効率的な生産体制の確立に向けた取組などを推進しています。



集落営農研修会の開催

4 農地利用，基盤整備等

〈農地利用〉

農地の効率的な利用を推進し，農業生産力の維持向上を図るため，農地中間管理機構や市町村，農業委員会等と一体となって，農地利用の意向把握や，地域計画の策定の話合い活動，基盤整備の取組などと連携した農地中間管理事業の推進による担い手への農地の集積・集約に取り組んでいます。

〈基盤整備等〉

農業の競争力強化や農地の集積・集約化を図るため，農地の大区画化・水田の汎用化，ほ場や畑地かんがい施設の整備などを推進しています。

これまでに造成された土地改良施設の機能を今後も持続的に発揮させるため，施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るストックマネジメントに取り組んでいます。



畑地かんがい施設による散水状況

〈補修前〉

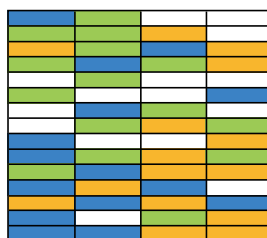


〈補修後〉



老朽化したポンプの補修

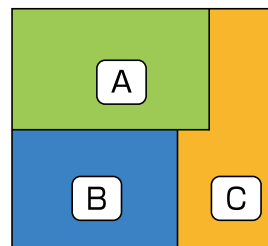
〈集積前〉



〈話合い活動〉



〈集積後〉



担い手への農地の集積・集約化（イメージ）

〈整備前〉



〈整備後〉



ほ場整備による農地集積



水田の汎用化を図る暗渠排水の施工

5 生産性向上

〈スマート農業の推進〉

「スマート農業」とは、ロボット技術やAI、ICT等を活用して、超省力・高品質生産を可能とする新たな農業のことです。

スマート農業の推進は、本県農業が抱える労働力不足や、農業後継者への技術継承等の課題を解決するためにも有効な施策であることから、「鹿児島県スマート農業推進方針」（H31.3月策定）に基づき、農業者の理解促進や現地実証活動等を展開しています。

また、令和4年4月に県農業開発総合センター内に「スマート農業拠点施設」を整備し、本県に適したスマート農業の推進母体として稼働しています。



スマート農業拠点施設

〈農業技術の開発等〉

農業開発総合センターでは、新技術及び新品種・種畜の開発・普及に取り組んでいます。

最近の成果としましては、パッションフルーツの新技術として、「つり上げ仕立て法」を開発しました。収量は従来の仕立て法の約1.5倍となり、商品性の高い果実割合が向上します。生産量の向上により、所得向上や新規就農者の参入促進が期待されます。

また、有機液肥や天敵類活用技術の開発、野菜や果樹等の有機栽培技術等の研究成果を基に、「有機農業の技術マニュアル」を作成しました。本マニュアルの活用により、本県の有機農業の更なる発展が期待されます。

肉用牛改良研究所で造成した「白浜喜」号は、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会で優等賞1席（農林水産大臣賞）を獲得した種雄牛です。肉改研からの出品牛は2大会連続の最高位獲得となりました。

肉用牛の改良等の研究を通じ、和牛日本一に輝く、「鹿児島黒牛」の産地育成にこれからも貢献していきます。



パッションフルーツ新技術
「つり上げ仕立て法」

有機農業の技術
マニュアル



「白浜喜（しらはまよし）」号

県育成品種「咲八姫」フラワー・オブ・ザ・イヤー受賞

本県育成のテッポウユリ品種「咲八姫」が、ジャパンフラワーセレクション「切花部門」の中で、最も優れた品種に授与される日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2022を受賞しました。

ジャパンフラワーセレクションとは、「いい花の新基準。」を合言葉に、国内外の花きの新品種の中から、消費者に本当に推奨できる品種を選定する審査会です。

「咲八姫」はテッポウユリ初の八重咲き品種で、これまでになかったイノベティブ（革新的）なテッポウユリとして評価されました。花持ちが非常に良く、上向きに咲き、立ち葉で容姿が美しい品種です。



咲八姫（さくやひめ）

〈動植物の防疫体制〉

本県は、農作物に甚大な被害を与えるミカンコミバエやアリモドキゾウムシなどの病害虫が侵入・発生しやすい地理的条件にあることから、国や関係機関・団体等と連携しながら、定期的なトラップ調査等による侵入防止対策を講じるとともに、万一、侵入を確認した場合には、まん延防止に向けた防除対策を実施しています。

国内において豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、近隣諸国においてアフリカ豚熱等の家畜伝染病が継続し、本県においても令和2年度から令和4年度にかけ、3シーズン連続で高病原性鳥インフルエンザが発生しております。

特に、令和4年度は、県内において過去最大規模となる13例が確認され、殺処分対象は約137万羽となりました。

県では、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るとともに、万一の発生に備え、防疫資材の備蓄や防疫演習を実施するなど、疾病の発生やまん延防止対策の取組を推進しています。



ミカンコミバエ



防疫演習

サツマイモ基腐病対策の取組

県では、県サツマイモ基腐病対策プロジェクトチームを設置（R4.1）し、「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」に基づき、関係機関・団体一体となって、ほ場に菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策の総合的な取組を推進しています。

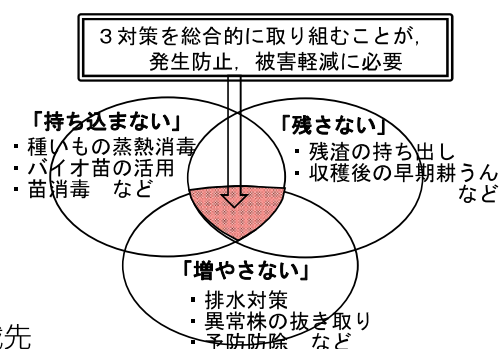
また、県内各地域のプロジェクトチームでは生産者への研修会の開催や個別巡回指導等による防除技術の周知に取り組んでいます。

農業開発総合センターでは、国等との共同研究により、基腐病の発生メカニズムの解明、抵抗性品種と農薬、ドローンを組み合わせた省力総合防除体系の開発などに取り組んでいます。

対策のパンフレット等は、関係機関・団体への配布、県のホームページに掲載し、情報発信に取り組んでいます。



基腐病防除に係るドローン研修会



「サツマイモ基腐病対策に関する情報」掲載先

<https://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodonoogyo/index.html>

6 農村振興

〈共生・協働の農村づくり運動〉

「人と自然と地域が支え合うみんなで創る農村社会」を目指して、地域住民の自主的な話し合い活動を基本に、農村集落と大学やNPOなど地域外の多様な主体との連携による「共生・協働の農村づくり運動」を進めています。

令和3年度 共生・協働の農村づくり運動表彰 知事賞受賞団体

部 門	受 賞 者 名
農村集落部門	秋幾農業創生塾(龍郷町)
功労者部門	中間 幸敏 氏(南九州市)
功労者部門	米森 十一 氏(さつま町)
支援団体部門	たかぜ 竹子っ好調会(霧島市)

令和4年度豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞 荃永地区自治公民館（南種子町）

荃永地区自治公民館では、県内で先駆けて「耕畜連携による飼料用稲栽培」のしくみを構築し、町内の飼料用稲の栽培拡大と畜産業の振興に寄与してきました。

また「宇宙留学」を通じた都市住民との交流により、移住・定住を促進するとともに、古代米「赤米」伝承の地として、赤米御田植祭や収穫祭など地区全体で伝統神事を継承する取組を行い、住民の創意工夫による持続的なむらづくり活動を展開しています。



300年以上の歴史を誇る
「宝満神社の赤米御田植祭」

〈農業農村の有する多面的機能の維持・発揮〉

農業農村の有する国土の保全や良好な景観の形成等の多面的機能の維持・発揮を図るため、地域共同で行う多面的機能を支える活動や農地・水路・農道等の地域資源の質的向上を図る活動を支援しています。



共同活動により保管理された水路

〈グリーン・ツーリズム，農泊の推進〉

本県の豊かな農産物や食、伝統文化、自然などを生かして、農産物直売所等を活用した都市住民との交流、農作業等を体験する修学旅行の受入れなどグリーン・ツーリズムを推進しています。

また、農家民宿等に滞在しながら、農山漁村の魅力を味わってもらう「農泊」を持続的なビジネスとして実施できる体制づくりの普及啓発に取り組んでいます。



農泊シンポジウムの開催

7 農業災害防止等

〈農業災害対策の推進〉

本県では、台風や寒波等により、毎年、農作物やハウス等の農業施設などに被害が発生しています。

災害の発生が懸念される場合は、農業者に事前に対策を周知するなど、被害の発生や拡大を防止しています。

災害が発生した際は、相談窓口を設置するなどして、技術指導や復旧資金に関する相談等の対応を行っています。



台風により損壊したハウス

また、シラスなどの特殊土壌に覆われているため、台風や豪雨による災害を受けやすい条件下にあります。

このため、農地の侵食や崩壊を未然に防止するための排水路整備など、農村地域の防災・減災対策を行っています。



＜整備前＞



＜整備後＞

〈活動火山防災営農対策の推進〉

桜島などの活動火山を有する本県では、降灰による農作物被害を防止・軽減し、地域農業の発展を図るため、被覆施設や洗浄施設の整備等を行う農業者団体等を支援しています。



茶の除灰機



被覆施設

〈鳥獣被害防止対策の推進〉

市町村等と連携しながら、「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を柱に、集落ぐるみの被害防止研修会の開催や侵入防止柵の整備、捕獲活動に必要な経費の支援などハード、ソフト面にわたる総合的かつ一体的な対策を強化しています。

また、捕獲した鳥獣のジビエ利活用拡大に向けた取組を推進しています。



侵入防止柵の整備



集落ぐるみの被害防止研修会

8 食育及び地産地消

〈食育〉

本県ならではの豊かな食文化や農林水産業を生かして、かごしま版食事バランスガイドの普及啓発や、郷土料理等の継承推進、農業体験等の取組への支援など、ライフステージに合わせた、県民の健康で豊かな食生活の実現を図っています。

また、子どもたちに対する体験活動を通じた食育を促進するために、食育に携わる指導者を対象に「食と農の指導者研修」を実施しています。



食と農の指導者研修



市町村等の取組支援
(保育園での農業体験)

県と県教育委員会及びＪＡグループ鹿児島による 「食育に係る連携協定」を締結

令和4年8月に、小中学校における食育活動のより一層の推進を目指し、県と県教育委員会及びＪＡグループ鹿児島の3者で「食育に係る連携協定」を締結しました。

子どもたちに、農業・農村の役割、食の楽しさや大切さなどについて理解を促すため、3者で連携し、農業体験活動の推進、学校給食における地場産農畜産物の活用促進など、食育の取組をさらに充実・強化していくこととしています。



食育に係る連携協定調印式

〈地産地消〉

本県農林水産物を積極的に活用している飲食店・量販店等を登録する「かごしま地産地消推進店」や、地産地消の情報発信役である「地産地消推進サポーター」への情報発信等を通じて、県産農林水産物への理解促進を図っています。

さらに、高校生等を対象に、県産食材を活用したメニューコンテストを実施するとともに、企業等と連携し入賞作品の商品化・販売PRするフェアの開催やSNSでの発信など、若い世代をはじめとする幅広い県民への理解促進に取り組んでいます。

また、農産物に含まれる「栄養成分」等に着目し、生産者や関係者等への研修会の実施、情報提供など、県産農産物の高付加価値化に向けた取組を推進しています。



↑かごしま
地産地消推進店を
県HPで紹介



高校生を対象とした
県産食材活用
メニューコンテスト



コンテスト入賞作品を商品化・販売PRする↑
「かごしまおいしいものフェア」



かごしまおいしいものフェア
キックオフイベント



農産物の栄養機能等を生かした
高付加価値化に係る個別相談